

〈B 分散会〉

《自己紹介》

《報告 大麻中 K》

司会者 それでは、今から、お手元にあるテーマについて、日頃感じていることを出し合い、深めていきたいと思えます。なお、今していただきました報告につながる内容でも結構ですので、活発な意見交換をお願いします。なお、記録の関係上、発表者は中学校名、学年、氏名を言ってから発表していただきますようお願いいたします。さっきの報告者について何か感じることはないか。今、「障害」者の人について、みんなはどう思っているか。

吉野中K 私は以前に「障害」者の人と会ってから、かわいそうだなと思っていただけだが、障害がある人と話す機会があって、その人は、かわいそうだと思われることを望んでいないと言った。障害がある人と、ない人の間に差別があることが障害だと言っていた。障害という言葉

葉は、障害がある人となない人の間でおこる言葉なんだと思った。

吉野中T 私は、小学校の時、「障害」者の人と道で会うと逃げてしまった。そのことを学校の生活ノートに書くのと、逃げてしまったことをなおしたいという気持ちがあれば、自分でなおすことができると言ってもらった。それで、次に会ったときに、「こんにちは。」と声をかけると、「こんにちは。気をつけて帰りなよ。」と言ってもらえてうれしかった。

司会者 他に意見はないですか。報告の中にあつた『しんちゃん泣いた』を見た感想でもいいです。

意見がないので、テーマにそつていきます。部落に生まれたことを「いつ・どこで・誰から」知らされ、そのときどのように感じましたか。

大麻中E 集会所があつて、幼稚園のとき先生が迎えに来てくれた。

吉野中T 私は、六年生のときに学習会の先生から教わった。

大麻中教師 この話し合いをすることの意味を考えてほしい。社会にはたくさん差別がある。障害の人の人権を誰

が保障するのか、部落差別を受けている人の人権を誰が保障するのかと考えてみると、大麻中では、勉強するのは差別者のほうではないかという意見がある。みんなもそう思っていると思う。しかし、例えば女性の人権を保障するのは男性なんだが、そのことをわかってもらうためには、悲しいかな差別を受けている側が、言っていかなければならないのが今の現実である。吉野中のKさんや、Tさんが障害者の人の気持ちがあつたのも、その人達と話したからである。だから、部落差別のことについて、こういう場で言う練習もしてほしい。全員に言ってもらってはどうか。

《生徒の意見のまとめ》

- ・ 家族の話し合いの中で。あまりにも感じなかつた。
- ・ 小学校高学年の頃。あまりいやな思いはしていない。
- ・ 小五のとき、学習会の先生から。中学生になり部落差別が何かわかつた。
- ・ 小二のとき、母親から。小五くらいからわかるようになった。
- ・ 小二のとき、学習会で。わかっているつもりだが、

まだわかっていないので、中学校でも勉強しているんだと思う。

・ 小六のとき、仲の良い友達のお母さんにあつちの子と遊ばれんと言われた。部落差別は簡単なものじゃないんだと思つた。

・ 小三のとき、親から。中学校で勉強するまで自分のこととして受けとめてなかつたが、今は怒りを感じ、自分に何ができるか考えている。

・ 低学年で理解できなかつたが、理解できたとき、なくそうと決心した。

・ ものごころついたときなので、どう感じたか覚えていない。

・ 自分は出身ではないが、なくさなければいけないと思つたので学習会に参加している。

司会者 自分の住所などを言うことをためらつたことはありませんか。家族はこのような会に参加することをどう思っていますか。

大麻中F 両親は反対していない。兄や姉は、高校に行くことと学習会のこととか知らない人たちもいるから、中学校

のうちにしつかり勉強しておくほうがいいよと参加することをすすめてくれる。

吉野中T 私の両親は、このような取り組みに賛成してくれて、こんな会が終わったあとも話し合ってくれます。

大麻中E 両親も解放運動をしてきたと思うので、賛成してくれている。姉も同じだ。

応神中 僕の父は会社で差別をうけているから、僕にそれに立ち向かう力をつけてほしいがっている。こういう会に出るのは賛成している。

豊中中 自分がやりたいことは、すすんでやれと言ってくれている。

吉野中K 今はまだ差別をうけたことは少ないと思うのでわからないが、大人になったときに、目の前で差別を見たときにそれは違うと言える力を、今つけておく必要があると思う。

応神中 自分が気づいていないだけで、差別はまわりについていると思う。

司会者 日常のなかで差別をうけた人の話を聞いたことはありますか。

大麻中F 姉が友達に、母親から姉と遊ぶと言われたと

相談された。それが差別だと姉は言っていた。

吉野中T 友達の姉が結婚すると言っていたのに、急に断られたそうだ。部落だからかなと言っていた。

助言者S 現在も様々な差別事件が起こっている。みんなはそれに気づく力をつけていかなければならない。今、高校生での事件が多くなってきている。同和教育が遅れている学校の生徒は、中途半端な知識しかなく、間違えた感覚を持ち、高校へ来るからだ。また、社会に出ればもっと多くなる。そして、現在多くの差別落書事件が起きている。このことを知ってもらい、保護者の方に話を聞いてきてほしい。

そして、自分の将来にはつきりしない不安があるのをはつきりさせてほしい。部落差別について自分が勉強し、他人に話せるようにしておくことで不安が解消されていくだろう。そして、将来差別をする人に対して、はつきり発言できるように力をつけてほしい。自分の言いたいことを伝える方法は大切である。だから、今も声を大きく、はつきり言えなくては意味がない。

司会者 暮らしの中での被差別体験について聞いたことはないですか。

次のテーマに移ります。学校では同和問題学習についてどんなことをしていますか。

吉野中T 吉野では、獅子舞などを通して学んでいる。

応神中M 小学校のころはわからなかったのですが、同和問題学習は暗いイメージがあったが、中学校にはいり、取り組みにも慣れてきて、どのようにすればよいかわかってくるにつれ、印象がよくなった。

吉野中K クラスでは資料を通して学んでいるが、下を向いている人や黙っている人が最初は多かった。が、今はだいぶん発言する人も増えた。

応神中S クラスで同和問題の授業をすると、何でまたするのかと不満の声があがる。腹が立つのだが、どうすればみんなを積極的にさせられるか。

豊中中T 僕なら、少数でもいいから同じ意見を持った仲間を増やしていく。

吉野中T 小さな仲間から、大きな仲間へと作っていく。

それでもだめでも、真剣にみんなに向かい合っているって、がんばっていけば、社会に出たときに力になると思う。

司会者 これからどのように学習会に取り組んでいきたいですか。どのような同和問題学習をしていきたいですか。

豊中中T 僕は、差別意識を持った人がわかってくれるまで話し合っていきたい。わかりあえるまで話し合える学習会にしていきたい。

吉野中T 吉野では同和かるたをして、先人の思いを学んでいる。やっていないところは是非やってほしい。

応神中S 自分の力だけでなく、同じ思いを持った人と力を合わせて、差別や偏見を持った人に立ち向かっていきたい。

司会者 先生方の中からも、意見・感想があれば言って下さい。

応神中教師 うちの生徒の中には、同和問題学習について暗いイメージがあるが、みなさんはどうか。同和学習をまたか、と言う生徒もいたが、気づいてほしいことはたった一つである。どうか気づいてほしいとがんばっている。授業では自分を語ってほしい。どのように授業をしていくか、教師も迷うときがある。みんな自身がどんなことをしたいか、学びたいか、知りたいか教えてほしい。

助言者S 高校に行けば仲間とも離ればなれになるが、この中学生集会で他学校の友だちと交流する機会を持つことで、助け合える仲間を広くつくれる。差別に負けない

先輩に学び、誇りうる人間の姿を学んでいくことが同和
教育である。

助言者M お互いの心のうちを言い合える仲間づくりを、
しっかり学習会でしてほしい。